

J02 情報科学科プログラミングの実施状況報告（ポスターセッション：ジュニア部門）

著者	小暮 悟, 西村 雅史, 佐治 斉
雑誌名	発表予稿集：情報学シンポジウム
巻	2017
ページ	6-6
発行年	2017-10-14
出版者	情報学シンポジウム実行委員会
著者版フラグ	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10297/10427

ジュニア部門

本情報学部の授業での学びの成果/進捗を発表します。今回の発表に参加する授業のうち、「プログラミング」と「学習マネジメント」は学部1年生が受講する必修科目で、「先端情報学実習」は学部2年生以上で受講できる選択科目です。いずれも受講者の主体性を重視するプロジェクト・ベース学習により進められます。「プログラミング」は担当教員から、「学習マネジメント」と「先端情報学実習」は受講学生から、その成果/進捗を発表します。

J01

行動情報学科のプログラミング教育

福田直樹 (行動情報学科) (代表) ほか, 行動情報学科プログラミング担当および関連科目担当者

本発表では、新学科設立2年目の後半を迎える行動情報学科のプログラミング教育について、その背景となった2学科情報システムプログラムにおけるプログラミング教育の概観を示す。さらに、そこからデータサイエンスや人工知能を見据えた、チームで行動のできる信頼できる「個」の育成という観点から、その考え方および実際の取り組みを述べる。それらを強化するために必要となる、アルゴリズムとデータ構造基礎を代表とした基礎講義科目や、企業との連携演習科目であるWebシステム設計演習など、関連する講義・演習科目との相互連携についても、その概要や取り組みを概観する。

(プログラミング)

J02

情報科学科プログラミングの実施状況報告

小暮悟 (情報科学科), 西村雅史 (情報科学科), 佐治斉 (情報科学科)

情報科学科では1年生後期に必須科目としてプログラミングを開講している。プログラミング言語はJavaを採用している。情報科学科は定員100名の学科であり、高校時代の様々な活動の差から、クラス全体で見るとプログラミング知識の上下の差が存在する。その為、3つの工夫を行っている。まず1つ目は、必須課題と発展課題の設定である。2つ目は口頭試問の実施である。これにより、特に必須課題で躓いている学生を発見し、個別指導の場を用意している。3つ目は複数のグループ課題の設定である。4名～6名で1グループを形成し、機能の設計、機能の実装 (プログラミング)、機能のテストをそれぞれ別の学生が実施する。これにより現実社会でも行われる複数人でのプログラミングを体験すると同時に、他人の書いたプログラムを読む経験を与えている。本発表では、特に、グループ課題における学生の作成したアプリや学生の学びに関する感想などを報告する。

(プログラミング)